

## サステナビリティ戦略の基本となる考え方

- 当社グループを取り巻く社会環境課題が年々深刻化



### 深刻化する気候変動

世界中で異常気象が深刻化し、人々の生活や企業活動に影響が発生



### 水産資源の減少リスク

世界的な魚食需要の高まり等から水産資源の減少リスクが発生



### 人権問題の顕在化

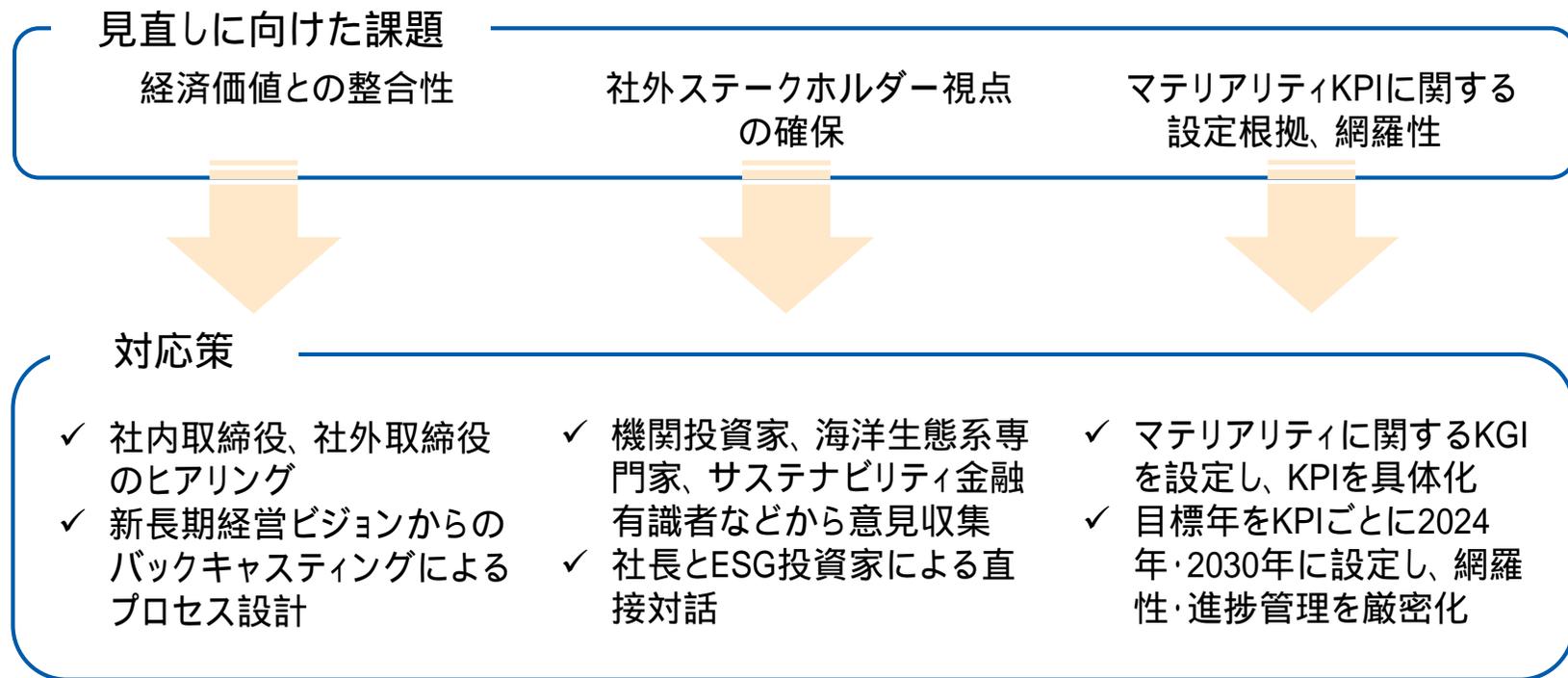
サプライチェーンのグローバル化に伴い、人権侵害が多様化かつ増加

- ✓ 「世界No.1の水産会社」としてマルハニチログループが果たすべき役割が明確化
  - 異常気象、水産資源減少リスクなどを踏まえた、地球環境との共生
  - グローバルに活動する企業として、サプライチェーンの人権リスクへの対応 など

サステナビリティ戦略(マテリアリティ)見直しが必要

## マテリアリティ見直しによるサステナビリティ戦略の再策定

- 新長期経営ビジョンを「核」として、マテリアリティおよびサステナビリティ戦略の見直しを実施

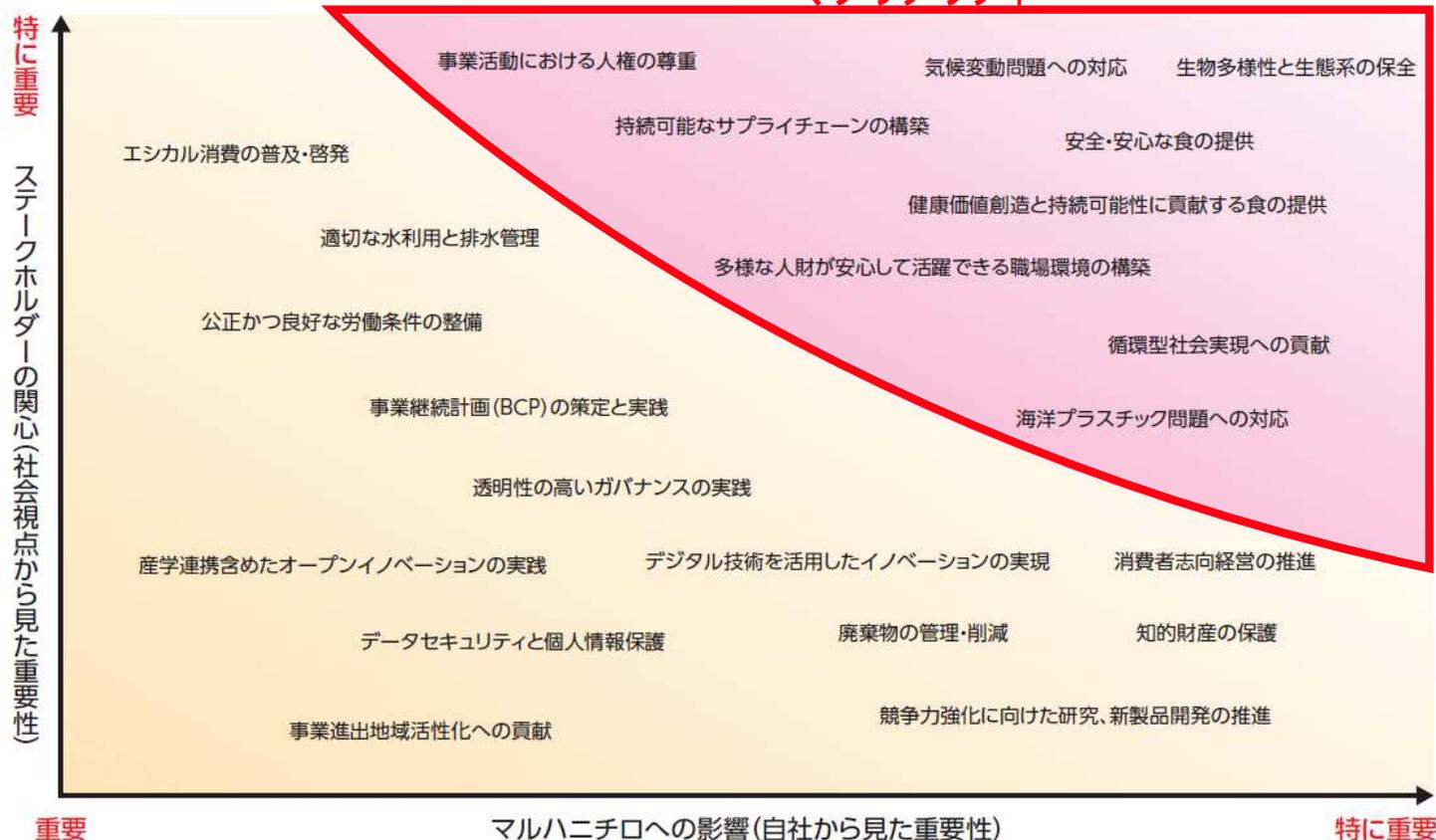


✓ 社内外から納得度の高いサステナビリティ戦略(マテリアリティ)を志向

# マテリアリティの見直し

- 社外の意見や期待、経営戦略との整合性を踏まえ、マテリアリティを選定

## マテリアリティ



✓ 経営資源を効率的に活用するため、社会軸・自社軸双方から重要性の高い右上象限をマテリアリティとして選定

✓ 外部環境や事業戦略の変化との連動を意識し、今後も定期的に見直しを実施

# 環境価値の創造に関するマテリアリティ

- 気候変動問題や生態系保全などに取組むことで、持続的成長と環境価値の両立を目指す

	マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		関連する 主なSDGs
				目標値	目標年	
環境 価値の 創造	気候変動問題への 対応	脱炭素や気候変動に対 して業界における主導 的地位を確立している	CO <sub>2</sub> 排出量削減ロードマップ策定(国内G*)	-	2022	 
			CO <sub>2</sub> 排出量削減率(2017年度比:国内G)	30%以上	2030	
			カーボンニュートラル達成(G全体*)	-	2050	
	循環型社会実現への 貢献	効率的な資源利用による サーキュラーエコノ ミー(循環型経済)がグ ループ内に浸透し、実践 している	プラスチック使用量削減率 (バイオマス、リサイクル素材等への切替含む)(MN*)	30%以上	2030	   
			フードロス(製品廃棄)削減率(国内G)	50%以上	2030	
			食品廃棄物等の再生利用率(国内G)	99%以上	~2024	
	海洋プラスチック問 題への対応	自社を含むサプライ チェーン上で海洋への プラスチック排出ゼロを 実践している	漁具管理ガイドラインの策定と運用率(G全体)	100%	2024	  
			海岸クリーンアップへの従業員参加率(国内G)	30%以上	2030	
	生物多様性と生態 系の保全	取扱い水産資源につい て、資源枯渇リスクがな いことを確認している	取扱水産物の資源状態確認率(G全体)	100%	2030	 
			生物多様性リスク評価実施(国内G)	-	2024	
			養殖場の認証レベル管理の実施(国内G)	-	2024	

# 社会価値の創造に関するマテリアリティ

- グローバル企業としての責務に能動的に取り組む、世界中の人々の健康と持続的な社会の構築を目指す

	マテリアリティ	KGI(2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		関連する 主なSDGs
				目標値	目標年	
社会価値の創造	安全・安心な食の提供	人々が安心できる食を世界中の食卓に提供している	重大な品質事故*(国内G)	ゼロ	2024	 
	健康価値創造と持続可能性に貢献する食の提供	健康価値創造と持続可能性に貢献する食品トップ企業としてブランドを確立している	健康価値創造と持続可能性に貢献する製品基準確立と2030年度目標の設定(MN)	-	2024	  
	多様な人財が安心して活躍できる職場環境の構築	多様性が尊重された、従業員が安心して活躍できる職場環境が構築できている	採用比率女性50%維持による女性従業員比率(MN)	35%以上	2030	   
			取締役会女性比率(MN)	30%以上	2030	
			女性管理職比率(MN)	15%以上	2030	
			マルハニチロ人財育成プログラム確立と2030年度目標の設定(MN)	-	2024	
	従業員エンゲージメント評価方法確立と2030年度目標の設定(MN)	-	2024			
事業活動における人権の尊重	自社含むサプライチェーン上で強制労働等の人権侵害ゼロを実現できている	サプライチェーン上の人権侵害ゼロの確認率(G全体)	100%	2030	 	
持続可能なサプライチェーンの構築	サプライヤーとの協働により持続可能な調達網構築を実現できている	サプライヤーガイドラインへの同意率・重要項目改善率(G全体)	100%	2030	 	

## サステナビリティ戦略 Case : 「気候変動問題への対応」

### 目指すゴール(KGI)

脱炭素や気候変動に対して業界における主導的地位を確立している



### 設定したKPI

グループ全体におけるカーボンニュートラル実現(2050年)

#### 主な取り組み施策

CO<sub>2</sub>排出量削減ロードマップ策定、  
およびロードマップに基づく削減実施  
✓ 2022年度中に2030年度までの削減計画  
(対象範囲、事業所別)を策定

#### 主な取り組み施策

TCFDを活用したシナリオ分析の実施  
✓ 海水温上昇による水産資源への影響、異常  
気象による農畜産原材料への影響を測定

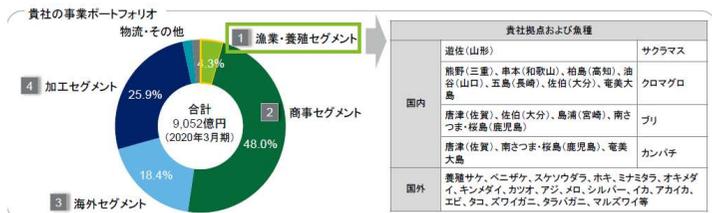
# サステナビリティ戦略 Case : TCFDシナリオ分析

- 事業への影響が大きい気候変動問題に対応するため、シナリオ分析に着手

## (1)シナリオ分析のプロセス



## (2)シナリオ分析の対象: 漁業・養殖セグメント



- ✓ 今後、対象セグメントの拡大、分析結果と戦略の統合を積極的に推進
- ✓ 投資家などとの対話により、社外との相互理解を推進し、企業価値向上を目指す

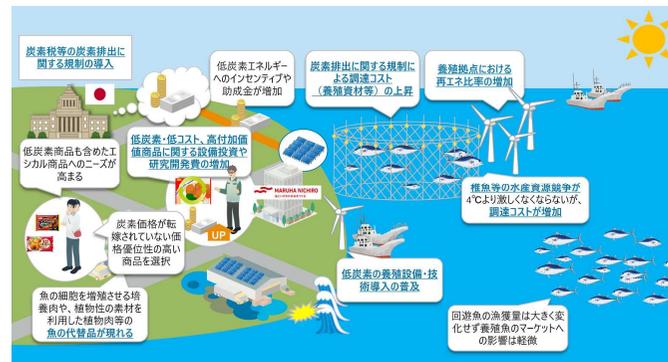
## 4 シナリオの世界観

- 操業コストの増加、生産量低下が発生し、物理的リスクへの対応が必要



## 2 シナリオの世界観

- 規制強化に伴う事業の低炭素化と高付加価値化製品開発が必要



# サステナビリティ戦略 Case : 「生物多様性と生態系の保全」

## 目指すゴール(KGI)

取扱い水産資源について、資源枯渇リスクがないことを確認している



## 設定したKPI

取扱水産物の資源状態確認率を100%(グループ全体、2030年)

### 主な取り組み施策

水産資源調査の継続実施

- ✓ グループ各社の製品、原材料について、水産物取扱量の現状把握、天然水産物の資源状態を科学的観点から評価する調査を継続実施

### 主な取り組み施策

環境に配慮した養殖の実践

- ✓ 自社養殖場におけるGSSI承認認証レベルの管理推進

# サステナビリティ戦略 Case : 「生物多様性と生態系の保全」

- 持続可能な調達を実践するため、グループ各社の水産物取扱量、天然水産物の資源状態を評価する調査を継続実施
 

すべての調査結果については右記を参照 [https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/sustainability/environment/maintenance/pdf/resource\\_survey\\_results.pdf](https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/sustainability/environment/maintenance/pdf/resource_survey_results.pdf)

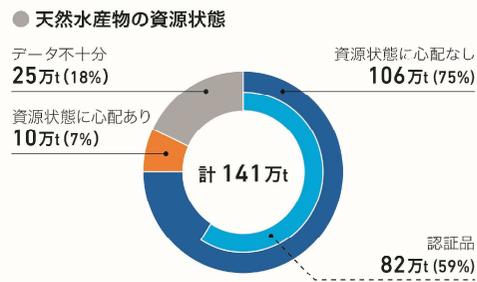
## (1) 水産物取扱量の現状把握

マルハニチロ国内外グループ全体が、グループ外から調達した原料、製品を対象に、水産物の取扱量を把握する調査を実施

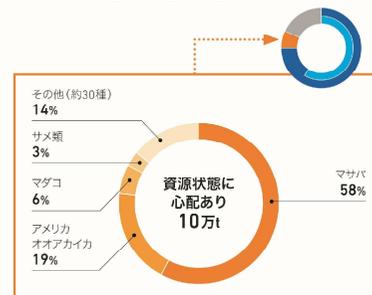


## (2) 天然水産物の資源状態評価

天然水産物の資源状態を評価するため、認証された漁業で獲られた水産物であるかを確認するとともに、外部機関(Sustainable Fisheries Partnership)により、科学的見地を重視した総合的な資源状態の評価を実施



### ● 「資源状態に心配あり」10万トンの明細



- マルハニチログループ全体の水産物の取扱いは原魚換算で約176万トンとなり、2018年世界の漁業・養殖、水産物生産量の約0.8%相当
- 取扱魚種は学名で約360種、原産国数は全世界196カ国中76カ国
- 一方、飼料原料である魚粉を中心に魚種が不明な水産物が約14万トンあることが判明し、これらを明らかにしていくことが重要な課題
- 「資源状態に心配あり」は約10万トン、「データ不十分」は約25万トンあることが判明
- 今後、現時点で資源状態に心配がある水産物の回復計画などを調査し、必要に応じて支援すること、データが不足している魚種について外部機関と協力しながら、「資源状態に心配あり」、「データ不十分」を減少させていくことが課題

# サステナビリティ戦略 Case : 「持続可能なサプライチェーンの構築」

## 目指すゴール(KGI)

サプライヤーとの協働により持続可能な調達網構築を実現できている  
自社含むサプライチェーン上で、強制労働等の人権侵害ゼロを実現している

## 設定したKPI

サプライヤーガイドラインへの同意率・重要項目改善率100%(グループ全体、2030年)  
サプライチェーン上の人権侵害ゼロの確認率100%(グループ全体、2030年)

## 主な取り組み施策

- 持続可能な調達を可能とするサプライチェーンマネジメントの強化
- ✓ サプライヤーとの共存共栄に向け、サプライヤーガイドラインの周知、理解促進
  - ✓ サプライヤー調査・フィードバックの定期的実施とシステム化促進

## 主な取り組み施策

- 自社事業・サプライチェーンにおける人権リスクの排除
- ✓ 人権研修や製造拠点における調査、ヒアリング
  - ✓ サプライヤーに対するリスク評価、リスク有と評価されたサプライヤーへのヒアリング



## サステナビリティ戦略 Case : 「持続可能なサプライチェーンの構築」

- サプライヤーガイドラインの周知、理解促進を通じたサプライチェーンマネジメント強化と自社事業・サプライチェーンにおける人権リスクの排除を推進

### 主な取り組み施策

サプライヤーガイドラインの遵守状況確認を目的とした調査実施とフィードバックによる改善促進

- 2020年度調査実施サプライヤーは1097社  
マルハニチロブランド製品を製造する認定工場については、その99.7%にあたる国内外293社の管理状況を確認
- ガイドライン解説書の配布、サプライヤーへのフィードバック実施による理解と改善促進

2020年度 調査実施サプライヤー	1,097社
対象サプライヤー	2020年度 調査実施サプライヤー
国内認定工場	127社
海外認定工場	166社
直営工場サプライヤー	242社
その他原料サプライヤー等	562社

### 主な取り組み施策

人権・労働慣行調査による人権リスク評価を実施

- 2020年度調査対象取引先は過去に人権リスクの認められたエリア・業種
- 今後は、人権・労働慣行調査の対象範囲を拡大して、人権リスク評価を実施

## サステナブルな水産資源アクセス強化

- 「世界No.1の水産会社」の地位を強固にし、当社グループとしてサステナブルな水産物の安定供給という使命を果たすため、天然・養殖双方の資源アクセス強化を継続

### 天然資源

#### 環境 認識

- 世界的な需要増に対して、天然資源量は限定的
- 各国の資源管理の厳格化が進み、新規資源アクセスの獲得機会は希少

### 養殖資源

- 世界的な需要増対応と天然資源保全の両立のため、養殖資源の重要性は今後ますます高まる
- ただし、海面養殖においては、ライセンス高騰・環境保全・生産リスク等課題も存在

#### 新中計期間 の取組み

- 既存資源アクセスの強化
  - 漁船更新・代船活用等による生産性向上
- 新規資源アクセスの獲得
  - サステナブルな優良資源の探索の継続

